



3. 河川整備計画(原案)について

- 3.1 河川整備計画の目標に関する事項
- 3.2 河川整備の実施に関する事項

■ 河川整備計画（原案）の目次

1. 流域及び河川の概要

- 1.1 流域の概要
- 1.2 河川の概要
- 1.3 河川の現状と課題
 - 1.3.1 治水の現状と課題
 - 1.3.2 水利用及び河川環境の現状
 - 1.3.3 河川環境の現状と課題
 - 1.3.4 河川整備に関する住民の意向

2. 河川整備計画の目標に関する事項

- 2.1 河川整備計画の対象区間
- 2.2 河川整備計画の対象期間
- 2.3 洪水、高潮及び地震・津波による災害の発生の防止又は軽減に関する目標
- 2.4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
- 2.5 河川環境の整備と保全に関する目標

3. 河川の整備の実施に関する事項

- 3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並び当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要
- 3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所
 - 3.2.1 河川の維持の目的
 - 3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所
 - 3.2.3 河川情報の提供

■ 洪水や高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標 (1/2)

計画書P18

洪水

- 洪水対策については、過去の浸水被害実績や河道の整備状況を勘案し、天白川においては、年超過確率1/5の規模の降雨による洪水を安全に流下させる整備を行う。

高潮・地震・津波等

- 高潮対策については、河口水門(既設)により伊勢湾台風規模の高潮による浸水被害の防止を図る。
- 地震・津波対策については、施設計画上の津波(河口が位置する地域海岸における設計津波の水位T.P.3.4m)に対し必要な機能を確保するため、水門の耐震対策など必要な対策を実施する。

河川施設の維持

- 天白川水門の確実な操作と操作員の安全確保のために、施設操作の遠隔化等の整備を実施する。
- 堤防や護岸、水門等の河川管理施設の機能を継続して確保するため、巡視、点検、維持修繕、機能改善、長寿命化等による計画的・効率的な維持管理を行い、常に良好な状態を維持する。さらに、必要に応じて施設管理の高度化、効率化を図っていく。

■ 洪水や高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標(2/2)

計画書P18

目標とする治水安全度を超える規模の洪水等

- 目標とする治水安全度を超える規模の洪水や、整備途上段階での施設能力を超える洪水に対しては、発生した被害に応じて必要な対策を講じる。

■ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

計画書P18

- 流況の把握が十分でないことから、今後も流況等の把握に努めるとともに、関係機関と連携し、動植物の生息・生育・繁殖環境、親水や景観等の河川環境に配慮した流水の正常な機能の維持に努める。

■ 河川環境の整備と保全に関する目標

計画書P19

- 現状の自然環境や地域の環境保全活動、郷土の歴史などを踏まえ、治水・利水と調和した河川環境の整備と保全に努める。
- 関係機関や地域住民と連携しながら、多自然川づくりを行う。

動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生

- 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生については、治水整備を行う際に、重要種や在来種を保全しつつ、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境及び生態系ネットワークを保全・再生する。

川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成

- 川とふれあえる場の維持・形成については、川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、地域住民の利用状況や要望等を踏まえ、関係機関や地域住民と連携し、親水空間の維持に努める。

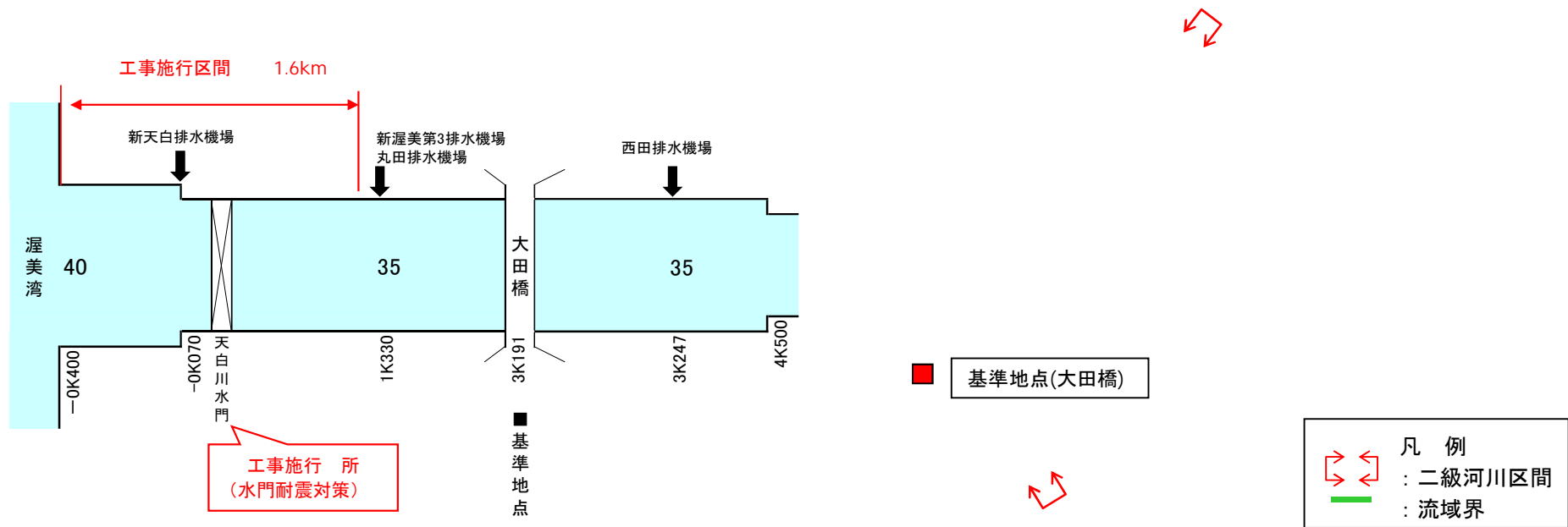
景観の維持・形成

- 良好な景観の維持・形成については、下流部の水辺の景観、上流部の田園風景等、周辺環境と調和した水辺空間の維持に努める。

水質の改善

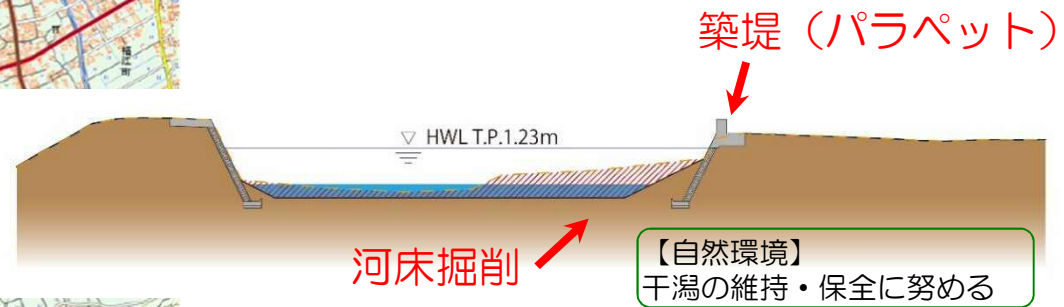
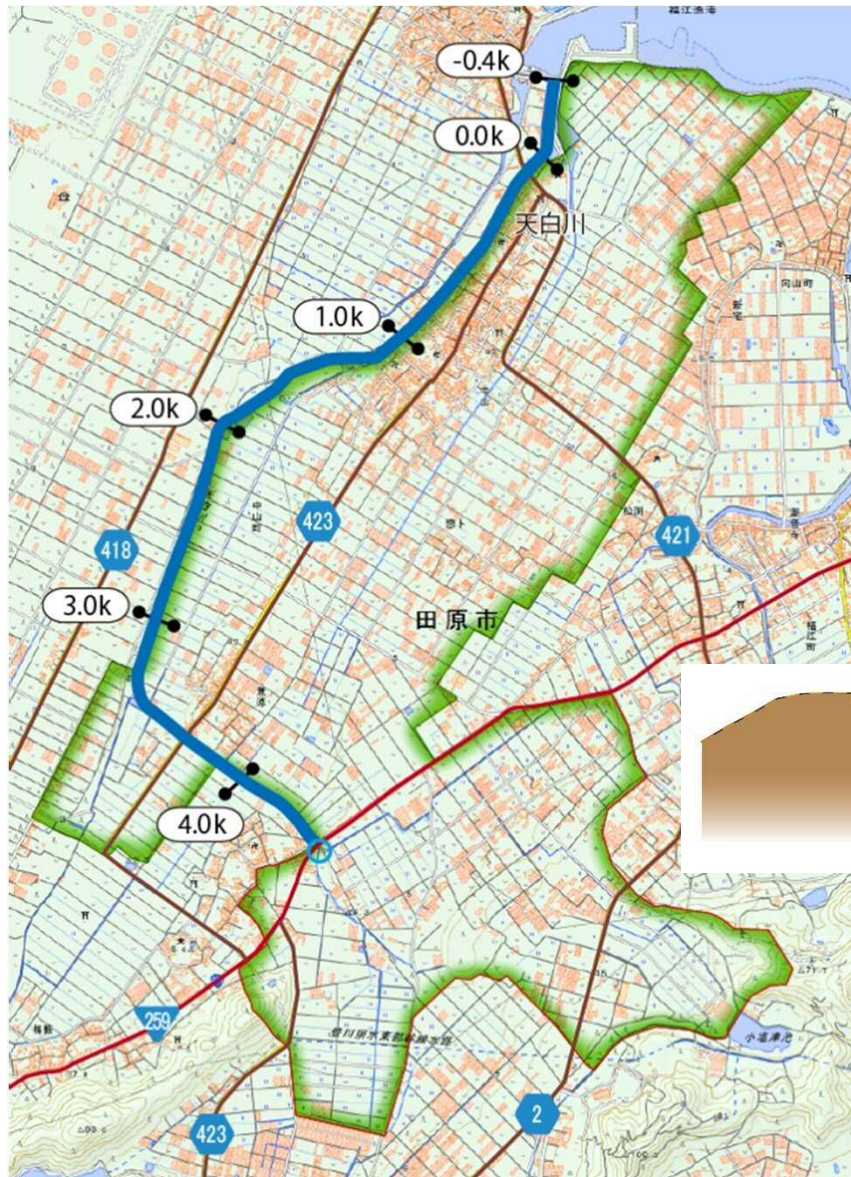
- 水質については、河川の利用状況、水利用状況、動植物の生息・生育・繁殖環境等を考慮し、関係機関や地域住民と連携を図り、良好な水質の維持に努める。

■ 河川工事の目的、種類及び、施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要②



工事施行区間位置図

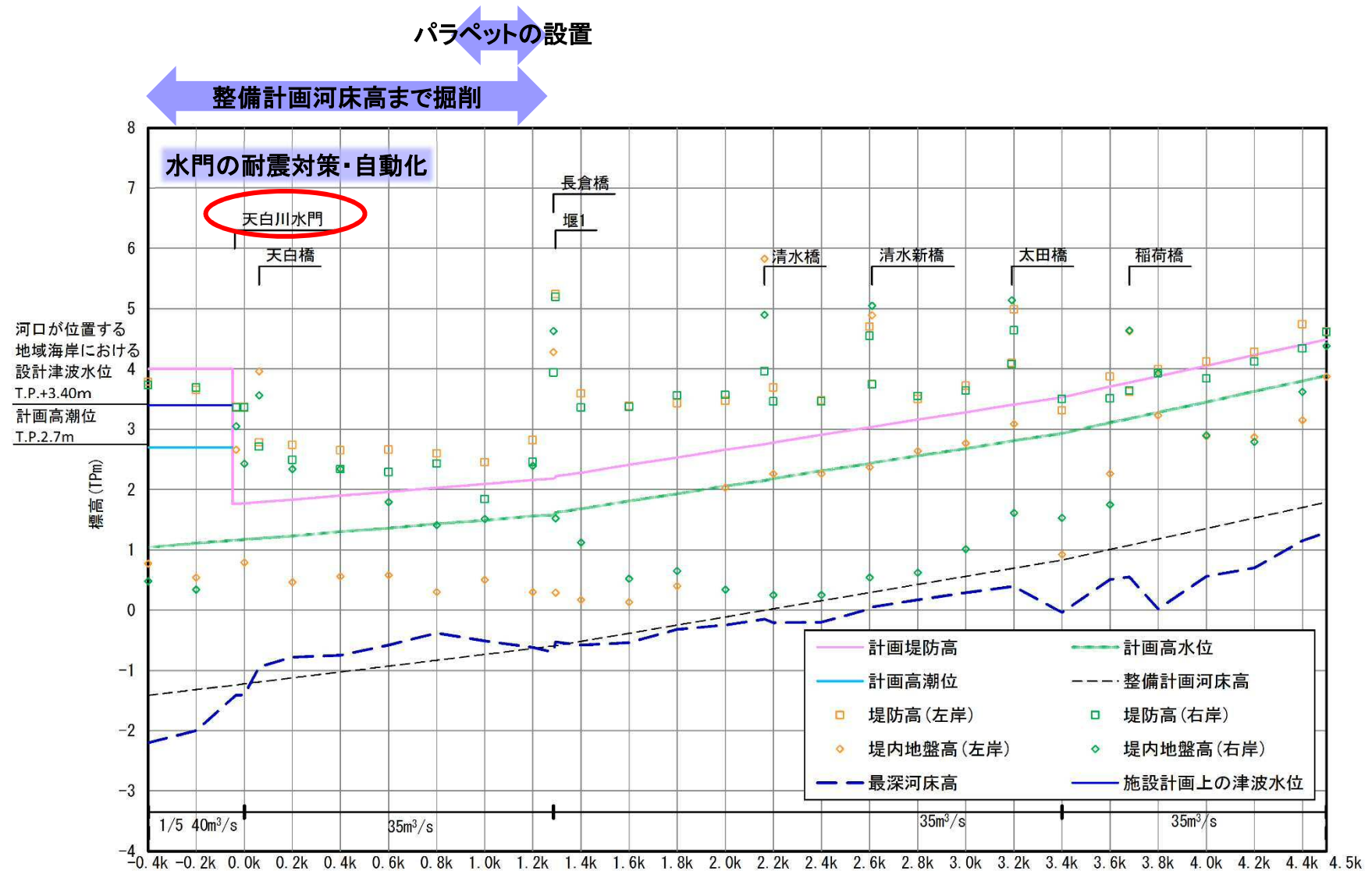
天白川の河川整備



整備計画イメージ図 (1.0k付近)

※イメージ図は必要に応じて変更する場合があります

天白川の縦断計画



■ 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

計画書P22

河川の維持の目的

- ・ 河川の特長や整備の段階を考慮
- ・ 「洪水や高潮等による災害の発生防止又は軽減」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」等の視点から総合的に判断
- ・ 洪水時や渇水時だけでなく、平常時から河川の有する機能を十分に発揮できるようにする

河川の維持の種類及び施行場所

1) 河道の維持

- ・ 河川の定期的な巡視
- ・ 治水上の支障となる堆積土砂の除去等の適切な対策に努める。
- ・ 実施にあたっては、植物の生息・生育・繁殖環境等に配慮し、多様な自然環境となるように努める。

2) 河川管理施設の維持

- ・ 日常点検や出水後の河川巡視を行い、老朽化の進行や異常が確認された場合には、適切な対応を実施に努める。
- ・ 許可工作物については、管理上の支障とならないように、占有者に対して指導・監督に努める。

3) 水環境管理の推進

- ・ 関係機関等と連携し、河川の流況や水質の監視等に努める。

河川情報の提供

1) 流域における取組みへの支援

- ・ 地域に対して河川に関する各種情報を提供に努める。
- ・ 関係機関と連携し、地域住民の維持管理への積極的な参加を促すための機会づくりに努める。

2) 防災情報の提供

- ・ 雨量等の防災情報を迅速かつ的確に関係機関へ提供し、水防活動を支援する。
- ・ 災害時のみならず平常時から、地域住民の防災意識の向上を図るため、田原市の洪水ハザードマップ作成の支援、浸水実績等の周知、防災教育の推進等、関係機関や田原市と連携を図り、地域防災力の向上に努める。

■ 河川整備計画の費用対効果

- ・天白川の河川整備や維持管理に要する総費用(C)と、事業の実施によりもたらされる総便益(B)から算出される費用便益比**5.47**となる。
- ・費用便益比が1.0以上であるため**事業の妥当性がある**と言える。

河川整備 計画名	地震・津波対策※1		治水対策の費用対効果※3			
	総事業費 (百万円)	被害額予想結果※2		費用便益比 B/C	総便益 B(百万円)	総費用 C(百万円)
		全壊家屋(棟)	死者数(人)			
天白川水系	73.9	5,200	300	5.47	552.0	101.0

※1 耐震対策については、B/Cの算出方法が定まっていないため、参考に河川整備計画に位置付けた堤防耐震対策、排水機場・水門耐震対策に必要な総事業費と被害予測結果を示す。なお、総事業費は、現時点における区間等に対するもので有り、今後の詳細な調査等により変更になる場合がある。

※2 県防災局「被害予測調査結果」(H26.5公表)による関係市町全域の合計

※3 算定方法は治水経済調査マニュアル(案)(国土交通省河川局H17.4)による。

基準年：平成28年度

総便益(B)：552.0 百万円(現在価値化)

＝年平均被害軽減期待額(27.6百万円)＋残存価値(0.0円)

総費用(C)：101.0 百万円(現在価値化)

＝事業費(90.9百万円)＋維持管理費(10.1百万円)

※費用便益比が1以上の場合に事業の妥当性があるといえる。

※費用対効果は治水経済調査マニュアル(案)(国土交通省河川局H17.4)に基づき全国統一の基準で算定される。